

人を育て、人を生かす



米国派遣プログラム

激化する国際競争を勝ち抜くためには、多様な人材がそれぞれの能力を最大限発揮しなければならない。関経連では、産学や労使間での連携も含め、さまざまな形で、企業価値を高め関西経済の活性化につながる人材育成・人材活用に取り組んでいる。

社会人大学院を より身近なものに

大学・大学院の集積促進による都心部の活性化をめざし、1999年に当会が提案した「インテリジェントアレー構想」。産学官による検討の結果、その中核事業として2003年、社会人大学院への進学を促す学びの場が設けられた。それが、各界から講師を招く連続講演会「撰壇塾」と、より専門的に学べる「専門セミナー」である。前者は当会と関西生産性本部が共催、後者は現在、インテリジェントアレー構想に呼応して2007年に発足した関西社会人大学院連合が主催しており、当会も活動をバッタアップしてきた。

関西のものづくりを支える「組込みシステム」の重要性については、前述したとおり（35頁参照）だが、技術者を育成する一貫したプログラムが整備されておらず、人材不足が顕著であった。そこで、当会は2007年8月に産学官協働のプラットフォームとして設置した「組込みソフト産業推進会議」

スクール運営協議会」のメンバーとして、その運営に参画している。第1回から第9回までは中国・上海、第10回以降はタイ・バンコクを対象に実施し、今では当会会員企業の人材が集う相互研鑽と他流試合の場として定着している。

また、2011年度からは、駐大阪・神戸米国総領事館とともに、関西企業の中堅リーダーを対象とした「米国派遣プログラム」を実施している。企業推薦による少数の研修生が、国内での事前研修のち、企業や大学への訪問など、1ヶ月間にわたり米国で現地研修を受け、帰国後に自社の役員・上司に向けて自社への提案および自らのアクションプランを発表すると、このプログラム。2011～13年度は「起業家精神涵養」、2014～16年度は「女性のエンパワメント」をテーマに実施した。研修成果は派遣元各社で活用され、また、研修修了生間ではネットワーキング活動も継続されている。

ダイバーシティ・マネジメント の実現に向けて

昨今、人材の多様性が生み出す活力に着目した「ダイバーシティ・マネジメント」の重要性が高まつ

（2010年6月、「組込みシステム産業振興機構」に移行）にて、組込みシステムの高度化、品質向上に対応できる人材の育成をめざす

各地のニーズの高まりを受け、関西だけでなく、東北や中部でも遠隔授業を行っている。

また、これまでわが国の産業を支えてきた金属・材料工学・電気工学といった基盤技術分野においても、技術継承が不十分であつたことや研究活動の縮小などにより、技術の維持が困難となってきた。

産業競争力の強化に向けては、産学官一体となつて基盤技術を維持することが不可欠との認識から、当会は2011年8月に意見書「わ



モノづくり人材の育成・再教育に資する実践的プログラム「金属・材料工学」

が国産業を支える基盤技術の維持に向けて」を取りまとめ、国に

対し、具体的な人材確保・育成の仕組み作りについて提言した。また、率先して課題を解決すべく、基盤技術を維持するための「場」として、産学官連携のもと「モノづくり人材の育成・再教育に資する実践的プログラム「金属・材料工学」を毎年

開講。受講生・派遣元企業からは、「基礎を体系的に再習得することができた」など、高い評価を得ている。

2012年からは、産業界自らが率先して課題を解決すべく、基盤技術を維持するための「場」として、産学官連携のもと「モノづくり人材の育成・再教育に資する実践的プログラム「金属・材料工学」を毎年

開講。受講生・派遣元企業からは、「基礎を体系的に再習得することができた」など、高い評価を得ている。

2012年からは、産業界自らが率先して課題を解決すべく、基盤技術を維持するための「場」として、産学官連携のもと「モノづくり人材の育成・再教育に資する実践的プログラム「金属・材料工学」を毎年



海外人材（元留学生）の日本企業での働き方・活躍セミナー（2015年12月）

日本企業のグローバル展開の大背景に、当会では海外を舞台に企業の若手・中堅人材を育成する「アジア・ビジネススクール（ABIS）」は、以後毎年開催し、2016年には14回目を迎えた。アジアの都市を1カ所取り上げ、講義や企業視察を通じて、その都市のビジネスの現状を学び、そこで開催を想定した事業計画を策定する本研修。当会は「アジア・ビジネス

アシア・ビジネススクール（ABIS）」は、以後毎年開催し、2016年には14回目を迎えた。アジアの都市を1カ所取り上げ、講義や企業視察を通じて、その都市のビジネスの現状を学び、そこで開催を想定した事業計画を策定する本研修。当会は「アジア・ビジネス

アシア・ビジネススクール（ABIS）」は、以後毎年開催し、2016年には14回目を迎えた。アジアの都市を1カ所取り上げ、講義や企業視察を通じて、その都市のビジネスの現状を学び、そこで開催を想定した事業計画を策定する本研修。当会は「アジア・ビジネス

「米国派遣プログラム」において、「女性のエンパワメント」をテーマに据え、中堅女性リーダーを対象に、本人や自社での具体的なアクションにつながる研修を行った。女性の活躍推進について、労働政務官材活用研究会」を設置。海

外からの留学生を関西に呼び込み、さらには企業で活躍してもらうための施策について議論を重ね、留学生に対する就業支援の強化が必要な結論に至つた。

そこで当会は、2013年6月、関西の経済団体、大学、大学コンソーシアム、行政機関などとともに、「グローバル人材活用運営協議会」を設立、産学官協働で留学生の就業支援を行う体制を構築した。同協議会では、就職に向けた準備の段階から企業への定着に至るまで、留学生を一貫してサポートするプログラムを開拓。日本企業で働く海外人材（元留学生）との交流の機会を設けるなど、留学生の関西企業への一層の定着・就業拡大をめざして取り組みを進めている。

一方、「ダイバーシティ・マネジメント」の「試金石」として、特に注目を浴びているのが、「女性の活躍推進」である。当会では前述のとおり、2014～16年度の

が国産業を支える基盤技術の維持に向けて」を取りまとめ、国に